

シラバス

事業者名 学校法人 昌平賢

科目名	1. 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感させ、以降の研修に実践的に取り組めるようにさせる。			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)多様なサービスの理解 小松 夏代	3	3	0	○介護保険による居宅サービス ○介護保険による施設サービス ○介護保険外のサービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解 小松 夏代	3	3	0	○各種サービスにおける介護職の仕事内容や働く現場について（視聴覚教材利用） ○ケアマネジメントを通じた、介護サービス提供に至るまでの流れについて
合計	6	6	0	

科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚させ、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解させる。			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)人権と尊厳を支える介護 金成 明美	5	1	4	○介護を必要とする人が有する権利について ○介護に関する基本的な視点（ICF,QOL,ノーマライゼーション） ○利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について
(2)自立に向けた介護 金成 明美	4	0.5	3.5	○介護における自立について ○「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について ○介護予防の考え方について
合計	9	1.5	7.5	

科目名	3. 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づかせ、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解させる。 ・介護を必要としている人の個性を理解させ、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようにさせる。 			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 今野 久寿	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○介護環境の特徴 ○介護の専門性、専門職に求められるものについて ○多職種連携の目的と利用者を支援する様々な専門職について
(2)介護職の職業倫理 今野 久寿	1	0.5	0.5	<ul style="list-style-type: none"> ○介護職がもつべき職業倫理 ○介護職にかかわる職業倫理（日本介護福祉士会倫理綱領参考）
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント 今野 久寿	1	0.5	0.5	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメント ○利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて
(4)介護職の安全 今野 久寿	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○介護職自身の健康管理の必要性 ○介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害 ○介護職自身の健康管理の方法
合計	6	3	3	

科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	<p>介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようにさせる。</p>			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護保険制度 小野 智範	4	0	4	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度の目的と動向 ○介護保険制度の基本的なしくみ ○介護保険制度の組織と役割、財政について

(2)医療との連携と リハビリテーシ ョン 関根 忠男	3	1.5	1.5	○介護職と医療行為の実情と経過について ○在宅および施設における介護職と看護職の役 割・連携について ○リハビリテーションの理念と考え方
(3)障がい者自立 支援制度及び その他制度 小野 智範	2	0	2	○障害者福祉制度における障害の概念とその歩 み ○障害者自立支援制度のしくみについて
合計	9	1.5	7.5	

科目名	5. 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識させ、初任者として最低限の取るべき行動例を理解させる。			
項目名・担当教官 名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)介護における コミュニケーション 松本 喜一	3.5	1.5	2	○対人援助関係におけるコミュニケーションの 意義と目的 ○介護におけるコミュニケーションの役割と技 法 ○利用者の状況・状態に応じたコミュニケーシ ョンの実際（事例参考）
(2)介護における チームのコミュ ニケーション 松本 喜一	2.5	1.5	1	○介護における記録の意義と目的、書き方の留 意点 ○報告・連絡・相談の意義と目的 ○会議の意義と目的
合計	6	3	3	

科目名	6. 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づかせ、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 佐藤 洋子	3	1.5	1.5	○老化が影響を及ぼす心理と行動 ○老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について ○多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について
(2)高齢者と健康 佐藤 洋子	3	1.5	1.5	○高齢者に多くみられる症状とその特徴 ○高齢者に多い病気の原因や特徴と生活上の留意点
合計	6	3	3	

科目名	7. 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づかせ、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる。			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)認知症を取り巻く状況 小野 智範	1	0	1	○「認知症を中心としたケア」から「その人を中心としたケア」に転換することの意義 ○問題視するのではなく、人として接する ○できないことではなく、できることをみて支援する
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 金成 明美	1.5	1.5	0	○老化のしくみと脳の変化 ○認知症に類似した症状をもつ疾病 ○認知症の主な原因疾患の病態、症状について
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 金成 明美	1.5	1.5	0	○認知症に必要なケアについて ○認知症の人の行動と環境との関係について ○認知症の人の尊厳を守る視点について
(4)家族への支援 小野 智範	2	0	2	○レスパイトケアの重要性について ○認知症の人を支える家族について
合計	6	3	3	

科目名	8. 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解させ、介護における基本的な考え方について理解させる。			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)障がいの基礎的理解 佐藤 洋子	45分	45分	0	○「障害とはどういうものなのか」という考え方について ○ICFに基づく「障害」の概念 ○障害者福祉の基本理念について
(2)障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識 松本 喜一	1.5	0	1.5	○障害の原因となる主な疾患について ○障害に伴う心理的環境、障害の受容について ○障害のある人の介護上の留意点
(3)家族の心理、かかり支援の理解 小野 智範	45分	45分	0	○家族支援について ○わが国に求められるレスパイトサービスの課題
合計	3	1.5	1.5	

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術				
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得させ、安全な介護サービスの提供方法等を理解させる。基本的な一部または全介助等の介護を実施させる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重させ、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。 				
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	施設実習時間数	講義内容・演習の実施方法等
I. 基本知識の学習 (1)介護の基本的な考え方 永井 有貴	2	0	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ○「介護」の変遷について（理論的） ○「介護」の変遷（法的）
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解 永井 有貴	4	0	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ○学習と記憶に関する基礎的知識 ○感情と意欲に関する基礎的知識 ○自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的知識
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解 永井 有貴	6	0	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ○骨や関節などのからだの動きのメカニズム ○神経の種類とそのはたらき ○眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらき
II. 生活支援技術の学習 (4)生活と家事 夷塚 陽子 木村 美咲	9	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を継続していくための家事の重要性について ○家事援助の意味 ○具体的な家事援助 * 家事援助演習を含む 内容：献立、食材選定、調理等
(5)快適な居住環境整備と介護 関根 忠男	5. 5	1. 5	0	4	<ul style="list-style-type: none"> ○安心・快適に生活するための環境整備 ○安心・快適な室内環境の確保の仕方 ○住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点 * 講義 1.5 時間 施設実習 4 時間
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 施設実習	4	0	0	4	<ul style="list-style-type: none"> ○整容の必要性と、整容に関連するこころとからだのしくみ ○利用者本人の力を活用した、整容介護技術 * 施設実習にて実施

<p>(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>永井 有貴</p>	13.5	13.5	0	0	<p>○移動・移乗の必要性和、移動・移乗に関連するところとからだのしくみ</p> <p>○利用者本人の力を活用した、移動・移乗の介護技術</p> <p>○心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について</p> <p>*介護演習を含む</p> <p>内容:車椅子への移乗介助、車椅子での移動介助、杖歩行時の介助等</p>
<p>(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>夷塚 陽子 木村 美咲</p>	6	6	0	0	<p>○食事の必要性和、食事に関連するところとからだのしくみ</p> <p>○利用者本人の力を活用した、食事介護技術</p> <p>○心身機能の低下が食事に及ぼす影響について</p> <p>*介護演習を含む</p> <p>内容:食事の環境の整え方、食前体操、寝たままでの食事介助、口腔ケア等</p>
<p>(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>施設実習</p>	4	0	0	4	<p>○入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみ</p> <p>○利用者本人の力を活用した、入浴介護技術</p> <p>○心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について</p> <p>*施設実習にて実施</p>
<p>(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>施設実習</p>	4	0	0	4	<p>○排泄の必要性和、排泄に関連するところとからだのしくみ</p> <p>○利用者本人の力を活用した、排泄介護技術</p> <p>○心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について</p> <p>*施設実習にて実施</p>
<p>(11)睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <p>小野 智範</p>	4.5	4.5	0	0	<p>○睡眠の必要性和、睡眠に関するところとからだのしくみ</p> <p>○心地よい安眠を支援する為の知識と技術</p> <p>○心身の低下が睡眠に及ぼす影響について</p> <p>*介護演習を含む</p> <p>内容:ベッドメイキング、シーツ交換、体位交換、起き上がりの介助等</p>
<p>(12)死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護</p> <p>永井 有貴</p>	5	5	0	0	<p>○終末期のとらえ方</p> <p>○終末期から死までの身体機能の変化について</p> <p>○死に直面したときの人の心理状況について</p>

Ⅲ. 生活支援技術演習 (13)介護過程の基礎的理解 永井 有貴	4. 5	4. 5	0	0	○介護過程の目的と意義について ○介護過程の展開プロセスについて ○チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について
(14)総合生活支援技術演習 小野 智範	5	5	0	0	○利用者のこころとからだの力が発揮できない要因分析（事例） ○利用者本人にとって適切な支援技術は何か検討する（事例） ○利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について（事例）
合計	7 7	4 9	1 2	1 6	

科目名	10. 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認をさせるとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
(1)振り返り 小野 智範	2	2	0	○研修を通して学んだこと ○介護職が大切にすべき視点について
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修 永井 有貴	2	2	0	○今後継続して学ぶべきこと ○研修終了後における継続的研修について (OJT,OFF-JT)
合計	4	4	0	

科目名	修了評価			
指導目標	全ての項目の評価の基準を満たした者に対して、修了評価筆記試験を行い、100点満点中70点を基準点として修了評価を行う。基準点に満たない者には、補講を行い、再試験を行う。			
項目名・担当教官名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
小野 智範	1	1	0	全50問の筆記試験を実施する。
合計	1	1	0	